

【仙台医療圏市町村長会議（R3.11.24）での主な発言】※発言順

市町村	意見
仙台市長	<p>仙台市の意見は、本市や仙台市民のことだけを考慮して提出したものではない。</p> <p>今回の再編の方向性が、仙台市を含む医療圏全体の将来にとって望ましいものであるのか、域外、圏域の住民の医療サービス水準の維持向上に繋がるものであるのか、データを丁寧に分析し、様々な角度からしっかりとした検討評価がなされる必要がある。</p> <p>オープンに議論をして、県民、市民の皆様方の納得のもとで進められていくことが最も大切である。</p>
富谷市長	<p>人が増え、企業が増える中で、急性期、救急を担う総合病院がないことは長年の課題である。立地が決まれば、用地の確保、財政支援をしっかりと行っていきたい。</p>
大郷町長	<p>今回の再編はまさに時代を先取りした新しい発想である。大変将来に期待が持てるのでこのまま続けていただきたい。</p>
利府町長	<p>災害拠点病院が分散化されることは大賛成である。再編すると、スケールメリットが得られて病院が生き残っている。</p>
名取市長	<p>仙台市以外の救急搬送時間の短縮、周産期医療体制の確保は、県南部地域が抱える課題であり、新病院を名取市に誘致をすることは大きな希望である。名取市内への誘致について、引き続き、強く要望する。</p> <p>精神医療センターの早期建て替えや東北労災病院と合築し、一般病院との連携強化及び精神科救急体制の強化を図るといった県の方針についても理解する。</p>
山元町長	<p>新たな拠点病院を名取市に整備することは、宮城県南サミットを構成する県南4市9町の総意である。</p> <p>精神医療センターが移転する場合、交通の利便性の確保、地域の精神科クリニックとの連携体制の構築や受診者の継続的な治療に向けた配慮をお願いしたい。</p> <p>周産期医療体制に特化せず、産後デイサービスなど産後ケアの受け入れも視野に検討してほしい。</p>
塩竈市長	<p>私たちも「自分達の病院がなかったらどうなのか」という視点でしっかりと考えないといけない。</p>
岩沼市長	<p>周産期医療は岩沼市内に集中している。さらに充実させないと少子化対策や人口増対策にもならない。</p>
松島町長	<p>移転先等の周辺地域医療提供体制との連携、交通アクセス等も含め、医療を受ける側の問題点を整理し、地域医療の今後のあり方について、議論を深めてほしい。</p>

多賀城市長	仙台医療圏の住民の方々の医療を受ける機会を制限されることがないように十分配慮しながら進めるべきである。
亘理町長	亘理町には病院がなく、救急は山元町や岩沼市にお願いしているのが実状である。名取市に病院が整備されることに大いに期待をしている。
七ヶ浜町長	再編についての異論はないが、移転先が遠隔地になると、交通アクセスの面で利用することが出来なくなる懸念がある。
大和町長	災害拠点病院の空白地が解消され、救急搬送時間の短縮も大いに期待される。
大衡村長	仙台市内の医療機関を受診しなければならない場合があり、高齢者には身体的、経済的に大きな負担が強いられている。